二〇二一年一〇月二三日

悠然と輪を描く鳶や秋の峰　わかば

止まり木の二合に酔うて赤い羽根　素秀

秋空へ弦引き絞る斜張橋　はく子

暮れなずむ嶺に夕づつと匕首の月　はく子

宵闇や墨匂ひたつ写経堂　愛正

写し絵の夫に好物栗おこわ　むべ

海渡る車窓に瀬戸の島は秋　素秀

放水のアーチ高々飛騨の秋　凡士

紅葉渓棹一本を操りて　かかし

行く秋や思ひ人来ぬ同窓会　なつき

鐵工所槌音に伍し鵙高音　素秀

海の日のつるべ落しや密柑山　宏虎

観覧車いま天辺や秋高し　よう子

穂薄や画架立ち並ぶ運河沿ひ　なつき

絵手紙のクレヨン匂ふ秋灯下　素秀

秋潮がテトラポッドの苔撫づる　更紗

すがれ虫夕べ鳴きつぐ河川敷　はく子

秋耕へ覆ひくる影大江山　凡士

秋潮の引きて磯蟹四散せり　凡士

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年一〇月二四日